

コミュニケーション往来

No 2

発行所
尼崎市水堂榎木
20 榎木庄 今井

月刊キブツ
読者会

伝言板
② 定期的にこの通信を受け取り
たい人は15円のカンパを。
① 3月の読者会は27日
示

談放

新しい集団

新しい集団



CM欄

現代のアニキズム運動

一青アキズムの武者修業記 一閑 弘 著
三一書房刊 3500円 尾

うか。我々だけで勝手に
に名称をきめてしまっ
たが。

B「みんなから募集する
？」

A「それ、A程度の例えで
そのことを提案し、み
んなの意見を聞くのが
いいのではないかしら
？」

C「新聞ついでいえば、な
んかよく似たものが
沢山出てるでしよう。
これは似ていても、沢
山出るといふことに意
義があるんかしら。」

A「よく似ている場合、
そこは無駄を感じるとし
数が多くなり、読み切
れない感じにもなる。」
C「どこに何が出てるの
かわからぬというこ
とと、読みにくい。バ
ラバラだから、そうい
う目的の点もあるけ
ど、こんな沢山出る
ということ、個人新聞
が出ることを何かある
と思う。」

A「沢山出ることはいい
と思う。自由連合が
それをダイジェストし
ているのはいいから、自
連・共同体社会主義・
P.A.X.などは、非常
に重複が目につく。」
B「はつきり、このミニ
コミの性格というか独
自性というものを、う
ち出さなければ、発行
する意味がなくなる。

自由連合・P.A.X.通信
共同体社会主義・ゆう
とびあいの道。いや、

C「新しい集団で名前
どうして出来たんで
すか。」

A「月刊キブツ、読者会、
者会では、あんなより
長いのでー。ガリ切
りながら4人で考え
たんです。キブツと
かシヤロームとか、
共同体とか、ハイム
(ヘブル語、住の意)とか、ク
ブツア・ハダシヤ、(ヘ
ブル語、新しい集団の意)……
いろいろと調べてたけ
れど。」

C「パツと見た時、や
わらかいし、いい名
称だなんて思ってたん
ですよ。だけど……」

A「パツと見た時、月
刊キブツ、読者会
とは、又、別のもの
ではないかと。思うの
ではないかしら。こ
の表題の、新しい集
団の下に、ちやんと
書いてあるけれど」
(澤刻常習者、やつ
て来る。)

C「私は、コミュニ
往来という名称を、
なんとなく考えてた
んだけど、出来てき
たのを見たら、新し
い集団となつてて、
これもいいなと思つ
たんです。ただ、共
同体という命題を追
究している会かどう
かは、一見わかりに

くい名称ではあるけ
ど。」

B「新しい集団って名
称は、確かに斬新で
はないし、面白味も
余りないかもしれな
い。あの時は、なれ
ないが切り切りで、
エネルギーは消耗して
たし、もともと創造
性枯渇状況?? 無難
なところだ落ち着い
た感じになつてしま
つたつておけです。」

A「今までにはない新し
い、という点を強調し
たように思つた。」
B「勿論、月刊キブツ
読者会という性格か
らして、キブツって
名前を出してもよか
つたのかもしれない
けれど、人間関係の
場として会の性格か
ら考えると、イストラ
イルにキブツつても
のが現に存在してい
るし、それで会の性
格が限定されるよう
で抵抗があった。あ
んなまり、名称の問題
にこだわりたいはな
い。でも新しい集団
を、一冊で廃刊して
しまつて別の名前
ミニコミ出してもし
いと思う。」

A「月刊キブツ読者会
員は、この名称を、
どう感じているだろ

自己変革運動

「お・も・ぐら」の会
等々、深山のミニミニがあるけれど、その中で我々のミニミニを出す意味があるのか・意味あるものとしていきたい。」

A「尾関さんが、この月刊読者会を呼びかけられたものを、もつとはつきりさせた。日本キブツ協会の動きを知る必要もあるように思う。現在の読者会に欠けているものは何なのか？」

C「出たら出放しで、間に消えるように消えて去るのは残念だしね。新しい集団が、そういう中で、一つの意義を持続的に追究するには、同じ紙面を通じて、共通項を叩き出してゆくべきですね。やはり物の生産性を同時に持つた意識変革運動体でありたいわけですよ。」

A「それが、現在の読者を結びつける共通項になり得るだろうか。やはり月刊キブツを中絶して、もつと考えてゆく必要はないのだろうか。」

B「わたし、今度、益ヶ崎ワークキャンプへ行こうと思う。」

C「なぜ？」

B「なぜって、なぜ？」

C「いや、あの益ヶ崎へ行くって、あれは益ヶ崎があるけど、益ヶ崎の労働者の意識変革運動としてならわかるけど、そうでもない

なら、なにか、この体制の、ボロの繕いのために、エネルギーを消耗させる氷たいに思う人だけ。」

B「勿論、現体制の中で、社会福祉活動をやるつてことを考えたりぬぐいにか過ぎないという見方もある。だからといってカマガサキ・キャンプに行かなければ私か、家で何をしていたかということになれば、自分の力に用じてもって、本を読むことぐらい。それでは進みようがないし、とにかく、体を動かして、カマガサキ・キャンプから叩きとるものがあると思う。」

C「その運動がなにかということ。」

B「私という人間は、共同体を創るとしても、それその意識的確立が出来てくるかどうかかわからないわけよ、だから、自分の中で方向性を叩きつけさせるためにも、カマガサキ・キャンプに参加してみたい。」

C「それはわかる。また意識変革運動も非常に必要だと思ってるよ。ただ、そのエネルギーが、体制の底辺を支えている部分その補助として消えていくというの、なんとしても残念なわけだね。益ヶ崎の労働者に、食のためだ、しようがないやないかと云われたら、奉仕して、その力は得力は厚い。だから

といつて益ヶ崎で埋没してしまふのはもつと意味がない。意識変革運動としても、生産性を持った運動というものは、出来たものかと思ふ。三里塚が強く、納得できるのは、自分の生活の上で立つていくからだと思う。」

A「私も、キブツ読者会の個人の運動の実態を、知りたいたいと思う。秋岡さんの高鷲ワークキャンプや、Cさんの益ヶ崎のワークキャンプにも、部分参加してみたい。奥村又雄さんの船南農園や、岡田さんのきのこ・シクラマン栽培や、北さんの……しかし、自分自身がどうもネ二者的な感じが強くて、そこに完全にとけこめそうにない。」

B「訪ねることに遠慮はないらなと思う。実態を通しての連帯も深まると思ふ。」

C「私もネ二者という意識は全然ない積りだけれど彼等と、だけれど現実には離れているのだし、みなそれぞれどういう歴史性に立っているのか、どういうふうに連合しようというのか、連合するには、むづかしいものがあるのか、わからないのよ。といつて勤めている者にとつてもうこの境三週間の日旺が、これで塞ぎまわっているし。」

A「有給休暇などの権利を、活用することは、できないものかしら。限界は感じるが。」

C「そういうことで運動に限界があるというのと何か、を指しているともいえる。私なん

ん小変革のための運動と、生産性とは同時的に在るべきだと考えるんだけれど」

A「先づ足もとのキ」

「ブルジョア会の中でのそれ／＼の運動の副題点を卒直に出し合うことによつて、お互に補足しあえることが出てくるのではなにか。用かれた各々の運動の交流（相互作用）の中で、必然的に自治的な大連合へと発展をつづけていくことは、望めないものだろうか」

情報報

酪農パルクだより

PART 1

——京都での活動を二月末で一応終え二十一日より東京の事務所へ活動をしています。

今のところ四月末が五月はじめを入山のめどにしてながら進めているわけですが、現在急を要している消費者の組織作りは重点を置いてやっています。

——都会の消費者が欲しているものは決して単なる物質的なもの（本ものの牛乳）ではなくそれ以上に精神的なもの（心）のよりどころではないだろうかという事です。余りにも非人間的に肥大化した都市文明の中で、人々の求めてはいるものがあるさとの回復である

りそこでこの新しい人間関係なのです。

——都会の人間が農村へ入ることの諸々の問題は山積みされています。私達自身が自然の中で建設という作業をやりぬく主体が形成されているかどうか。又、農民の抱く違和感をどういふ形で取りのぞき組んでいくかどうか。そついろ厳しい条件の中で新しい人間関係をづくり、それが閉じないで、発展してゆけるかどうか……

——こういう問題を前にして、現在私達は東京で十名程の共同生活の場を持ちあひを確かなながら東京での運動を進めると共に、牧場建設にむけての訓練をやっている次第です。

（これは、私信ですが北沢に照会して掲載させていただきます）

ひょうまん連合宣言

PART 2

最も抑圧されておりながら、人間としての権利すらも主張できず萎れようとしている精神（弱者）（見）者問題と取組むなかで、自らの生活の根柢から、差別・偏見を取り払う運動を展開し、施設共同体を建設し、真の人間社会を建設するために新しく全国から結集した、同志おにうの会、F-W-C東海、潮平会の連帯の運動が始まろうとしている。これは前例のない連合である。斗争拠点としての、あらくさ、建設も4月より始まろうとしている。

る。連合により、より力強く、あらくさ、が建設されることは、これからの日本の新しい、運動・実践と可能性を切り開くものである。あらくさ、建設を通じて、より一層の同志の連帯と団結をもつて、将来においてあらゆる運動体、組織と連帯しうる、ひょうまん連合へと発展するべく、単に斗争のための運動ではなく、常に建設的に運動を進めるように、われわれは、つとに集結したことを自覚し、主体性を持って綿密な現状分析をし、強固な理論を内在し、明日への、力強い斗争を推し進める。（ひょうまん連合）

ほんじん連合宣言

PART 3

共同体には、その成立の動機によって二つの形態がある。一つは共同生活、共同体を目的とするもの、もう一つはある政治的な斗争のなかから自然に選びとられた共同体である。ほんじん連合は後者にあたる。しばしば共同体かあまりに体制内ので戦闘性を失落させている時、後者の共同体はユニークである。

たとえば心境界落にしても、その動機はちかえ共同体かやむにやまれぬ形態として選びとられた。このように共同体には、たんに生活体としてではなく明確なる変革力をもつて登場しえるものがある。これを再評価しなければならぬ。（百尾閑弘）

（「播磨ヤマトに結集しよう」先月号に書いたように、卑劣のピラミッドから骨になんかおれようとしている。共同体を孤立化させないために、播磨ヤマトに出かけ共に闘おう。発行所まで。）